

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

# 松本大学学報

# sokyu 蒼穹

2022.9 Vol.148



地域課題をテーマに学生たちが議論する「三大学学生交流課題研究会議」を初開催 (詳しくはP.05をご覧ください)

**特集**

## 地域社会のニーズに応える リカレント教育の現状と今後の展開

.....	P.02
●学生が企画した「カードラリー」を上土商店街にて開催 .....	P.06
●学科の特性に応じた初年次教育プログラム .....	P.09
●交換留学生在本学での学びの成果を発表 .....	P.12
●本学を会場に開催された「県内短大・高校連絡懇談会」 .....	P.14
●ラート競技部 ラートインカレで男子個人総合2位! .....	P.15 ほか

# 地域社会のニーズに応える リカレント教育の現状と今後の展開

社会人の学び直しを意味する「リカレント教育」に注目が集まっています。その対応を大学において実践している事例も少なくありません。文部科学省では、大学による社会人向けの「履修証明プログラム」や「職業実践力育成プログラム」を策定しており、また厚生労働省も策定中の「職場における学び・学び直し促進ガイドライン」の中で、教育訓練機会の確保の1つとして大学などの外部機関の活用を提案しています。そこで今号では、現在、本学で導入している「リカレント教育」の制度や、教育プログラムについて特集します。

## 本学のリカレント教育

大学院	健康科学研究科	博士前期課程 博士後期課程
	総合経営研究科	修士課程

## 科目等履修生

## 聴講生

## 研究生

## 大学院 健康科学研究科(博士前期課程・博士後期課程) / 総合経営研究科(修士課程)

### 社会人が学びやすい 環境を整備

松本大学大学院は、健康科学研究科(2011年4月設置)と総合経営研究科(2022年4月設置)の2つの研究科を擁しており、現在、本学の大学院には8名の社会人大学院生が在籍しています。就職後専門分野の学びを追求したい人、定年退職後学び直しをしたい人、立場はそれぞれですが、目的をしっかりとって入学し自身の研究に取り組んでいます。本学の大学院は社会人が学びやすいよう特別な制度を設けているのが大きな特色です。各研究科の社会人大学院生について紹介します。

#### 主な制度

##### 〈入試制度〉

受験希望者は、研究志望分野を担当する教員と面談し、研究内容等について十分な事前面談を行うことで、入学後のミスマッチを防いでいます。

##### 〈社会人の都合に合わせた講義時間の設定〉

就業している社会人向けの講義は夜間開講(18:00~19:30、19:40~21:10)が中心で、都合に合わせて休日開講や集中講義への変更も行っています。

##### 〈修業年限を延長できる、長期履修制度〉

健康科学研究科博士前期課程、総合

経営研究科修士課程の標準修業年限は2年ですが、手続きにより、修業年限を最大4年にまで延長できます。授業料を分割納入できるため、一度に支払う金額も少なく負担が減り、無理なく自分のペースで進められる制度です。

##### 〈科目等履修制度からの単位認定〉

科目等履修制度は原則、社会人の専門分野の知識の更新を目指す制度ですが、科目等履修生が大学院に進学した場合には、入学社会人が学びやすい環境後に大学院の修了単位として認定することができます。

## 専門分野の学びの追求

健康科学研究科 博士後期課程1年

### 柴田 和宏 さん

(医療創生大学国際看護学部看護学科 助教)

#### ■大学院に入学したきっかけ

松本大学の修士課程卒業後に、教員として看護大学で働くことが決まったことが直接のきっかけとなっています。看護大学では博士課程に進んで研究をしながら仕事をしている教員が多くいることを知り、自分にもその機会があるのならと、博士課程への進学を決めました。

私は修士時代には福島智子教授の下で社会学研究を通し、多角的な視点や物事を深く掘り下げて考える姿勢を学びました。

その福島研究室では現役のみならず医療系の社会人学生も多く、笑いとともにクリティカルな思考の下での意見交換ができて

いたと思います。40歳を過ぎての入学でしたが、社会人にとっても非常に学びやすい環境で研究させていただきました。福島教授は、論文締め切りの直前まで私の拙い原稿に赤字を入れて下さり、そのおかげでなんとか形とすることができ、今年8月にはJSSHという社会学系のジャーナルに英語版を発表することができました。

普通は修士での研究の経験を生かして博士課程に取り組むことが多いと思いますが、私が心の底にずっと引っ掛かっていたのは、自然科学研究でのやり残しでした。修士時代、知識量の不足や実験環境の不慣れさから断念してしまっていた運動と遺伝子の関係



(エピジェネティクス)の研究は、修了した後も引きずっておりました。今度の選択は河野研究室しかありませんでした。松本大学の博士課程、河野研究室に進むことは、私のやり残した人生最大最後の挑戦と捉えております。

#### ■大学院で学んだことを どう活かしていきたいか

今後大学の教員を続けるにしろ患者さんの



いる現場に戻るにしろ、看護という世界で臨床と研究の距離をもっと近づけていきたいと思っています。学生も現場の看護師も、普段の会話でアイデアの断片はたくさん出しているというのに、研究というとハードルを感じるのか、何をやったらよいか、と尻込みをしてしまう状況を長年見て参りました。

大学でアカデミックな何事かに関心を持ち、自ら進んで学ぶ姿勢を身につけ、そこで得たものを各分野で共有していくことが、自分の職業の学問的な価値を高めると思うのです。私は修士では社会学研究、博士では自然科学研究で、どちらも自分のレベルよりもはるか上の課題に取り組み続けているつもりであります。

学生や後輩たちに同じように行動してほしいとは言えませんが、自分の一見無謀な行動の結果(良い結果ばかりではありません)を言葉や

姿勢・態度で伝えることで、自分たちもできるかも…と低いハードル設定から学ぶことを続けられる人間を育てられたらと考えております。

## 研究テーマ 運動エビジェネティクス (河野研究室)

修士時代に中途半端にしてしまっていた運動エビジェネティクスを、現在の仕事で担当している精神看護学領域と絡めて研究しております。過去の運動経験は、抑うつ状態にどのような影響を残しているのかを動物実験により明らかにしていきます。運動はうつ状態の改善に効果がありますが、過去の運動経験は数年~数十年後、うつ状態になってしまった人にとって、やはり効果があるのか。もしその経験がうつ予防効果として期待できることが証明されれば、子供の頃に運動をすることが、将来のストレス社会に対する一つの備えとして推奨されることになるかもしれません。数ある運動のメリットに、心の健康への備えを一つ加えることができればいいなと、そんな期待が研究のやりがいとしてあります。

## 健康科学研究科

### 【教員研究例】

#### 衰えない筋肉をつくる

河野 史倫 教授 (大学院健康科学研究科/スポーツ健康学科)

骨格筋に起こる遺伝子の記憶(エビジェネティクス)を解明する研究を進めています。速筋・遅筋では異なるエビジェネティクスが起こっていることや、慢性的な運動を行うと遺伝子構造が緩み運動に対する遺伝子の転写応答性が高まることをこれまでに明らかにしました。運動効果が上がりやすく、老化しにくい、さらには宇宙(微小重力や月・火星の低重力)のような極限的環境にも高い適応力を発揮する体質を人為的に獲得できるよう応用を目指します。

#### 物理的・化学的な味の評価

石原 三紀 准教授 (大学院健康科学研究科/健康栄養学科)

食べ物のおいしさを成立させる要因のうち、化学的要因である味、香りと、物理的要因である温度、テクスチャーなどと相互に影響しあっています。研究室では、ゼリーやパンなどの食品を調製する際に、添加する副素材が、食感を中心とした嗜好性に及ぼす影響を、客観的測定と主観的測定から検討しています。また、調理中の音に着目し、音が食感や水分量、外観などとの間にどのような関係があるかを調べています。また、官能評価と併せて味認識装置を用いて調理による味の組み合わせやバランスについても検討します。超高齢化が進む現代において、テクスチャーを中心とした“食べやすさ”を重視した“おいしい食品・料理”を考察しています。

### 【これまでの修了生の研究テーマ(一例)】

- 骨格筋の絶食応答におけるGPT2の役割
- 本邦におけるアスリートへの心理サポートに関する実態調査
- 後期回復期心臓リハビリテーションプログラムにおける活動量計の有効性
- 3T3-L1 脂肪細胞におけるZhx ファミリー遺伝子の発現調節機構の解析

- 児童発達支援センターにおける障害のある子どもの保護者の食に関するエンパワメントを支援するための質的研究
- 松本医療圏における在宅看取りの現状と課題  
-ケアマネジャーを対象としたインタビュー調査から-

## 定年退職後、実務的な知見の体系化をめざして

総合経営研究科 修士課程1年

北澤 量弘 さん

### 【大学院に入学したきっかけ】

私は、大手電機メーカーを定年退職しました。幸いにも入社以来、退職するまで様々な領域の仕事を経験させていただくことができました。ある時期から管理職へ登用されると会議や出張、資料作成などにより連日、連夜忙殺されることが多く、毎晩帰宅が深夜から明け方という極めてハードでまさに「胆力」が要求される生活を送ってきました。

在職中に「できるものなら、もう一度学生に戻り純粋に学問に向き合いたい」「これまでの実的な知見を論理的・学術的に体系化してみたい」という思いが芽生えました。そのことを具現化させる一つの手段として「大学院」という選択肢を抱き始めたことが最初のきっかけです。

### 【大学院で学んだことをどう活かしていきたいか】

この先、「新しい資本主義」の下で、たとえ

どんな形であれ自身が培った「理論と実践力」を駆使しながら21世紀型企業像のあるべき姿の実現に向けて、少しでも社会の成長・発展のためにお役に立つことができれば本望です。院生仲間と丁々発止する議論を通じて学びや気づきなど多くの知的な刺激を受けながら、日々、自身の成長への原動力になっています。本学を通じての出会いに心より感謝しております。



いに心より感謝しております。

## 研究テーマ 中小企業研究 (兼村研究室)

世界経済を牽引する大企業を支えている多くの中小企業を語らずして、今後の日本の発展について論ずることは困難です。そもそも中小企業とは一体何であるのか、中小企業の存立条件とは何であるのか、そして失われた20年を取り戻し、再び輝きを放つためには何が必要なのかなど興味や関心が尽きることはありません。今は中小企業経営について多面的な視点で考察を進めております。この先、明らかにしたいことに対して、きちんと筋道を立てて論証していく方法論や思考体系を学びつつ、「研究計画書」の立案に着手して行こうと考えています。

【教員研究例】

地域企業から学ぶ中小企業研究

兼村 智也 教授 (大学院総合経営研究科/総合経営研究科)

私の専門分野は中小企業研究、具体的には人的資源管理(働きがい、人材育成、ダイバーシティ等)、新事業展開、国際経営(経営の現地化)、経営戦略(高収益・成長企業のビジネスモデル等)などです。長野県にはすばらしい中小企業が多数あります。そうした企業から得たデータをもとに分析・理論化しています。

地方都市における空間再編と観光の浸透プロセス

丸山 宗志 専任講師 (大学院総合経営研究科/観光ホスピタリティ学科)

観光学・観光地理学の立場から、おもに都市域における観光地化の進展とそれにともなう空間変容のメカニズムについて研究しています。都市内部における土地利用状況の変遷や観光関連産業をはじめとする商業店舗の経営・立地動向への分析をとおして、地域資源や生活空間の観光対象化など、地方都市の市街地に展開する観光の浸透プロセスについて解明に取り組んでいます。

【教員研究テーマ】

地域経済分野

- 企業における契約責任と不法行為責任の重畳領域について
- 日本の工業化はどのようにして可能になったのかについて
- ブロックチェーンを取り入れたサプライチェーンコーディネーション
- データに基づいて“正しい判断”をする、EBPM (エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング) の基礎
- 実験経済学 (主に意思決定理論に関して)
- 台湾の社会と経済について
- 金融システムの経済理論
- 持続可能な社会のための環境教育や地域づくりに関する研究
- 産業立地・集積メカニズムに関する研究

科目等履修生

本学で開講している一部の授業科目を履修することができます。定期試験(レポート提出等を含む)を受け、試験に合格すると所定の単位と成績が付与されます。

※松商短期大学の図書館司書資格のみ科目等履修生で資格取得が可能です。

科目等履修正制度により図書館司書資格取得やスキルアップも

松商短期大学部 商学科 教授 伊東 直登

本学は、図書館の専門職である「司書」資格が取得できる教育課程を備えた、数少ない大学の一つです。国家資格のため、法律で定められた24単位以上の科目を修了する必要があり、資格取得はもちろん、いつか図書館の仕事に携わりたいという夢と目的を持った学生たちが熱心に学んでいます。

この課程は、図書館司書講座として社会人にも積極的に開放されています。今までに多くの社会人の皆さんが、働きながら学び、課程を修了しています。図書館で働きながら資格を取得して仕事をより充実させている方や、子育てを終わって再び仕事を始めようという方などがあり、中信地区を中心に公共図書館や学校図書館で活躍されています。

またこの課程は、司書資格を持って図書館で働いている皆さんが、日々進化する情報技術や図書館サービスの在り方などについて学び直す、リカレント教育の場としても開放されています。開設された18科目の中から、学びたい科目を自由に選んで履修し、自身の課題に沿ってスキルアップを図ることができるようにしているものです。

このように本学の司書課程は、松本大学生、短大生、社会人が一緒に机を並べて学んでいます。しかも、すでに図書館現場で働いている人までもがともに学び、刺激し合い、高め合っているという稀有な教育の場となっていることは、本学の大きな特色と言えるでしょう。

聴講生

本学で開講している一部の授業科目を受講することができます。単位の認定はありませんので気軽に大学の授業を聴いていただくことができます。聴講可能な科目は以下のとおりです。

研究生

本学の教員の指導の下に、本学の施設・設備を利用し、特定の専門事項についての研究を行うことができます。



【科目等履修生・聴講生の開講科目一覧】

【教養科目】

地域史、情報処理(Word、Excel初級・上級、パワーポイント)、英会話、生涯スポーツ、国際経済、自然と産業、子どもの育ちと教育 等

【総合経営学科専門科目】

地域産業論、CGの基礎、企業取引法、日本経済史、管理会計、臨床心理学、人的資源管理 等

【観光ホスピタリティ学科専門科目】

地域の行財政、外国史、生活環境論、社会福祉概論、グリーンツーリズム、観光概論、中小企業論 等

【スポーツ健康学科専門科目】

スポーツコーチング論、運動学、スポーツ・マーケティング論、スポーツメディア論 等

さらなるリカレント教育の充実に向けて

副学長 浜崎 央

今「リカレント教育」が求められるその背景としては、デジタルトランスフォーメーション(DX)などのデジタル化やグローバル化といった社会情勢の変化が、企業を取り巻く環境を急激に変えており、それに対応する知識やスキルの育成が求められていることがあげられます。さらに、日本における雇用制度が、これまでの新卒一括採用の後、働きながら仕事を学ぶ「OJT」による育成方法から、能力を

あらかじめ身に付けた人材を特定の仕事に採用するジョブ型へと変化が進むことも想定されており、社内だけでなく社外での社会人の学びや学び直しの機会が今後ますます必要となると予想されています。

これらの「リカレント教育」では、AIやIoT、DXなどの「デジタル技術」や、「経営・起業」などのビジネスに直結する分野に限らず、「地方創生」や「女性の活躍」、「健康や介護」といった

日本社会の課題に対応する分野も強く求められています。本学においては、大学院において社会人が働きながら学べる制度や、生涯学習の推進を目的とした授業科目の一部を受講できる「科目等履修生」などの制度はあるものの、まだまだ十分な制度があるとは言えません。大学における地域貢献の意味でも、今後さらなる充実に向けた検討が必要だと感じています。



# 学生たちが“地域防災”をテーマに活発な議論 「三大学学生交流課題研究会議」 を初開催

総合経営学部長 教授 尻無浜 博幸



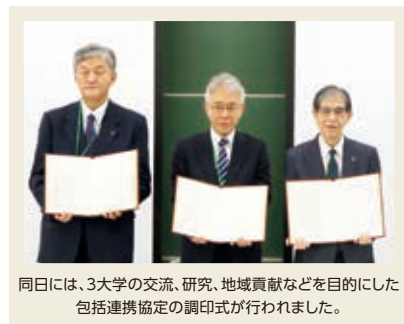
第1回「三大学学生交流課題研究会議」が9月9日(金)～11日(日)に本学で開催されました。この会議は、北は札幌市の札幌大学から、南は鹿児島市の鹿児島国際大学、そして日本の真ん中にある松本大学の三大学の学生が、地域課題をテーマに異なる環境の中から共通した地域的、社会的課題について議論し共有することにより、広い視野や多様な見識を持つ人材の育成を目的としています。初回のテーマは「地域防災」を掲げました。



まず本学で防災士資格を取得し、地域防災について学ぶ学生が、現状の取り組みとその課題について4項目提示し、その内容を論題として議論しました。①学生が防災士を学ぶ必要性や今後の活用、②保育園児への防災教育における重要点とその手段、③地域防災におけるコミュニティFM局の特異性、④中学校における避難所運営への関与です。また札幌大学からの雪害や北海道胆振東部地震の経験、鹿児島国際大学からの火山、台風害のことを論題に加えてグループディスカッションをしました。このディスカッションにあたり、地域防災科学研究所長の木村晴壽教授(総合経営研究科/観光ホスピタリティ学科)からは、足元の防災は命を守る行動であり、その後確実に逃げる行動であるとし、その過程での自助と共助

のあり方について今回議論を深めてほしいと助言がありました。2日目には、松本市島内地区を訪問し、実際に地域防災に取り組んでいる7人の町会長から現状の課題をうかがいました。最終日に成果をまとめ、グループ毎で発表し、地域防災をテーマとした地域課題の共通項を学生は認識することができました。

この会議は今後1年に1回、各大学が持ち回りで担当して進めていくことになっており、来年の当番校は札幌大学の予定です。



同日には、3大学の交流、研究、地域貢献などを目的にした包括連携協定の調印式が行われました。

## 各大学の参加学生からのメッセージ

### 堀内 健汰さん

(札幌大学地域共創学群経営学専攻3年)

今回の三大学学生交流課題研究会議を通して、防災の「現状」「課題」「理想」の三つと鹿児島県、長野県についてより深く楽しく学ぶことが出来ました。また、地域柄、起こる災害が全く異なる三大学がディスカッションするからこそ見えてくるものがあり、防災についての視野が広がったことを実感できました。さらに、松本大学の進行、会場運営の仕方がスムーズで、僕たちは何の苦もなく、この交流会に臨むことが出来ました。防災に関してのことはもちろん、自分達のプレゼン能力とコミュニケーション能力の向上にも繋がりが、「参加して良かった!また参加したい!またあの仲間達に会いたい!」と思える最高の交流会でした。

### 室屋 裕太さん

(鹿児島国際大学福祉社会学部児童学科3年)

第1回三大学学生交流課題研究会議に参加できたことは、新型コロナウイルスにより、県外へ出ることや他大学の学生と交流する機会ができなかった自分にとって、貴重な経験になりました。「地域防災」というテーマに沿って、各大学の学生とグループディスカッションを行い、それぞれの地域の特色やこれまでの経験を知ることができました。

3日間という短い期間でしたが、グループディスカッションや地域再生活動、松本城散策、学生交流を行うことができ、充実した時間になりました。今回の研究会議で得た経験をこれからの学びに活かしていくとともに、次年度以降に行われる三大学学生交流課題研究会議に貢献していきたいです。

### 小宮山 慶さん

(松本大学教育学部学校教育学科2年)

私はこの研究会議を通して、「地域防災」を多くの観点から見つめたことで、考えを深めることが出来ました。他の人の考えと自分の考えを共有し合い、新しい考えとしてまとめるという課題研究会議ならではの活動がそれに導いてくれたように思います。また、ディスカッションや地域散策などといった活動は学生間の親睦を深めることに繋がりました。離れた地域の学生と話すことで見えてくる類似点や相違点が興味深かったです。

この課題研究会議は私にとって、とても有意義なものになりました。これからは、災害は起きてから対策をするのでは遅いということを、若い力を使って啓発していきたいと思っています。

# 地域連携活動

## 地域づくり考房『ゆめ』

### 無観客のすすき川花火大会を盛り上げた「すすはなプロジェクト」

2020年に発足した「すすはなプロジェクト」は、すすき川花火大会(松本市)の大会実行委員会とともに企画・運営に関わる学生プロジェクトです。3年ぶりのすすき川花火大会に向けて、地域も学生も実施に期待しながら、戦々恐々とした活動でした。振り返ると2年間は、コロナの影響で花火大会が中止となり、悶々とする学生は、筑摩神社の伝統としての花火や地域との関りを学び、地域の方がどのように楽しんでいるか、アンケートを取って調査してきました。

アンケート結果から地域の方へ学生目線での提案をさせてもらい、今年度に入り実施の方向で動き出すと学生の高揚感が益々増してき



You Tube配信の進行を務めた学生



ました。新メンバーの加入と、すすはな散歩(筑摩地区を探索する活動)での交流が、活気のあるプロジェクトとなり、実施できることを願っての学生の寝ずの努力が続いていました。無観客開催を訴えながらFM松本で広告やラジオドラマ作りを行い、うちわも作製しました。コロナ禍で多くの学生が現場への参加を制限されてしまったのは残念でしたが、花火のYou Tube配信と場内案内の進行に携わったことや、全員協力してのひと夏の経験は、電光石火のごとく、また花火の大輪のごとく、大きな余韻を残して学生にも地域の方にも、そしてYou Tube Viewerの心にも残るよい夏となったと思います。

(地域づくり考房『ゆめ』専門員 倉田 吉春)



ラジオドラマ収録の打ち合わせの様子

## 最近の活動から

### 学生が企画した「カードラリー」を上土商店街にて開催

観光ホスピタリティ学科の白戸・畑井・増尾・向井の各ゼミでは、これまで継続的に松本市中央地区で地域連携活動を進めてきています。今回、中央地区の上土商店街振興組合と協力しながら、同組合の50周年事業の一環として、「カードラリー」のイベントを学生が中心となって企画しました(同イベントは8/31をもって終了しています)。上土商店街の9店舗に設置されているカードを4枚集めて、それらを組み合わせると、カード裏面に1枚の絵柄が揃うなど、随所に学生の創意工

夫が感じられる取り組みとなっていました。「このイベントをきっかけに、是非、上土商店街に足を運んで頂きたい」という学生の熱い気持ちは、地域の方々にも確実に伝わったと思います。学生からは、第2弾、第3弾と続けていきたいという声も聞こえてきています。今後も観光ホスピタリティ学科では、地域課題に目を向けた学びの一環として学生とともに地域連携活動に力を注いでいきたいと考えています。

(観光ホスピタリティ学科長 教授 畑井 治文)



学生たちが考案したポスターとカード



## 地域健康支援ステーション

### 山形村下大池地区で運動と栄養の両面から健康づくりを支援～「レッツ健カツ!」講座を実施～

本学と山形村は2020年11月に包括連携協定を結んでおり、山形村下大池地区からご依頼を受け、6月26日に運動と栄養について講座を行いました。

#### 運動面 体力測定と正しい歩き方の指導

運動面では「ウォーキング」をテーマに全4回の講座を実施予定で、第1回目の6月26日には、握力や長座体前屈などの体力測定をメインに、正しい歩き方についての説明を行いました。当日は10代から70代まで幅広い年齢の方々にご参加いただきました。参加された方の中からは「体力測定なんて学生の頃以来!」との声もあり、家族間だけではなく、地区の皆さんで和気あいあいと楽しみながら体力測定を行っていただくことが出来ました。

実技では、ウォーキング時の正しい姿勢や歩くときに意識してほしいポイントの一つ一つ確認しながら実際に歩いていただきました。次回の第2回目の講座では、今回行った姿勢や歩く時のポイントを押さえながら実際に屋外でウォーキングを行う予定です。

特別な道具などを必要としないウォーキングは気軽に行うことが出来るので、この講座をきっかけに少しでも健康や運動について興味を持っていただければ幸いです。  
(健康運動指導士 岩崎 紗佑美)



#### 栄養面 一日三食を基本に健康的な体型を保とう!

栄養面では「体重管理」をテーマに、講座を行いました。筋肉量を落とすことなく、健康的な体型を保つにはどうしたらいいのか、自分の体を知るために取り入れて欲しい事をいくつかのポイントに分けてお伝えし、普段口にしていない食べ物が体の中でどのような動きをしているのか、また過不足が起きると体からはどのようなSOSが出るのか、クイズを交えながら話を進めました。

また、食育SATシステムを用意し、当日の朝食で召し上がったものを振り返っていただきました。SATシステムは専用のフードモデルを用いることで短時間の内に大勢の食事診断を行うことが出来ます。結果は1日にどのくらい食べた方がいいかがコマの形で分かりやすく表示されている「食事バランスガイド」へ反映させ、印刷したものをお持ち帰りいただきました。

一日三食を基本とし、コマが偏らないように色々な食材を取り入れ、定期的に運動を行いながら健康的な生活を送っていただけたらと願っております。

(管理栄養士 長沼 伊穂子)

#### 松本商工会議所女性部健康教室

### 筋力をV字回復! 健康寿命を延ばす筋力トレーニングや ウォーキングを実践

9月1日、松本商工会議所女性部の方へ向けた健康教室を本学にて開催いたしました。10名ほどの方にお越しいただき、人間健康学部長根本賢一教授(大学院健康科学研究科/スポーツ健康学科)による講義や当ステーションの健康運動指導士による筋力トレーニングなどの実技を行いました。

根本教授の講義では、運動強度を意識した運動を取り入れることの大切さや、効果的なウォーキング、筋力トレーニングの方法を紹介しました。また、自身の消費カロリーや歩数を把握することができる「活動量計」についての紹介もありました。盛りだくさんな内容だっ



たため、聞き逃すことがないよう、熱心に耳を傾けて受講されていました。また、講義後には多くの質問が上がり、参加された皆さんの熱意が伝わってきました。

その後、講義の中で紹介された筋力トレーニングやウォーキング方法などを実際に体験いただきました。筋力トレーニングでは、日常生活でなかなか使うことのできない筋肉のトレーニングを、ウォーキングでは、音楽に合わせて楽しく歩いていただきました。

最初は皆さん緊張されている様子でしたが、体が温まってくると和気あいあいとした雰囲気、時にはお互いに声を掛け合いながら体を動かし、運動後のすっきりとした表情がとても印象的でした。

今後も地域・企業従業員の皆様へ向けた健康づくりのサポートをして参りたいと思います。

(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 水野 綾子)

## “ネイチャリングフェスタ”にて指導実習 提供側のスキルや心構えを実体験から学ぶ

観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代

例年7月の連休に、松本市アルプス公園を会場にネイチャリングフェスタ2022「自然と遊ぼうin松本」(主催:同実行委員会)が開催されます。今年は7月17、18日の2日間行われ、自然体験活動の指導実習ブースを3年ぶりに出展しました。学生による実習は観光ホスピタリティ学科3・4年の専門科目「自然体験活動論」の授業の一環で、4月から指導者向けの全国カリキュラムを学び、試験に合格することで、NEALリーダー(自然体験活動指導者)の資格を得られます。

ブースは①アウトドアナイフを使う『竹で食器づくり』と、②市内の自然学校「やがい楽校がらす」と協働して、マイギリ式火起こしを使う『古代の火起こし体験!』の2つでした。連日、受講生45名が交代で参加者を受け入れました。学生は参加者への説明を分かりやすくアレンジしたり、人数制限でもスムーズな受け付けを心がけたり、体験中は怪我のないように声をかけたり、常に進んで会場を片付けたりと、それぞれに工夫して積極的に関わっていま



した。暑い中でもブースは途切れることなく子どもや親子で賑わい、のびのびとした笑顔がいっぱいでした。多くの学生は入学時からコロナ禍の行動制限がありました。やっと実践の機会を得て、提供する側のスキルや心構えを実体験から学ぶことができました。お世話になった全ての関係者の皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

## 「伝統的な言語文化」の学習デザインのヒントを求めて 木曾町の義仲館へ

学校教育学科 専任講師 上月 康弘

学生たちは、「国語科教材演習」の中で最も難関の問いである「伝統的な言語文化」の学習デザインをどうすればよいかについて



問題意識を高めました。これまで高等学校で受けてきた授業は、大学入試センター試験対策が主で、品詞分解などの文法の習得が中心であり、「古典が嫌い」「古典が苦手」という意識が強く、どのように教えたらよいか見通しがもてない状態でした。

教師が「古典が嫌い」「古典が苦手」のままでは、間違いなくその教えを受ける子どもたちも、「古典嫌い」になってしまいます。今回のアウトキャンパス・スタディでは、それを克服するヒントを得るために、「平家物語」の「義仲の最期」を読み、歴史的背景を調べた

うえで、木曾町にある義仲館を訪れました。

「義仲の最期」に一瞬しか出てこない「手塚太郎」は、なんと、あの手塚治虫の先祖であることを知り、一同衝撃を受けていました。これは余談でしたが、見学を通し、テキストだけでなく、当時の時代背景や価値観を教師が共有することの重要性を実感することができました。「平家物語」を本格的に読むのは、主に中学、高等学校ではありますが、小学校の「伝統的な言語文化」における学習デザインの参考になったことと思います。学びの多い、とても有意義な時間となりました。

## 金メダル級の笑顔を! 地域の子ども達を対象に“泥リンピック”の企画運営

スポーツ健康学科 教授 中島 弘毅

7月16日に国営アルプスあずみの公園にて、同公園主催、スポーツ健康学科の学生の企画運営で「泥リンピック」を開催しました。子ども達に非日常的な体験と笑顔の提供を目的に、今年はレク支援実習及び中島ゼミの学生が企画をし、レクリエーション関係の授業を履修している学生と共に運営を行いました。なかには、大学1年次から毎年参加、そして卒業後も来てくれている学生もいます。

今年は「アドベンチャー」をコンセプトとし、「金メダル級の笑顔を!自然と共に泥リンピック」というキャッチフレーズで実施しました。

石拾いを兼ねた宝探しから始まり、最後には、田んぼフラッグで頭から泥に飛び込みました。子ども達も学生も全身泥だらけになりながらも満面の笑みを見せていました。

制限が多いコロナ禍を過ぎて来た子ども達も、広々とした田んぼの中で、自然と異年齢の子ども達と、そして大学生達と触れ合いながら大いに楽しんでくれていたようです。最後には、ドラム缶風呂に入り、賞品をもらって終えました。

学生達は、「企画立案、そして運営を行うこ



との大変さと難しさ、「周りを見て対応することの必要性」を学んだと振り返っています。企画から運営までの一連の活動と上級生は特にリーダーとしての役割と行動について実践的に学ぶ良い機会となったようです。最後に「企画書通りにいかないこともあったが、最後までやり通せたことに自分を誉めたい」などと精一杯の頑張りをしてくれた学生達に拍手を贈りたいと思います。



# 学科の特性に応じた初年次教育プログラム

大学・短大での学びや学生生活は、高校までとは全く異なります。本学では、入学後、専門教育への橋渡しになるような学部・学科の特性に応じた初年次教育を実施しています。その一部をご紹介します。

## 健康栄養学科

### 1年次に管理栄養士が働く現場を訪問 アーリー・エクスポージャー(早期体験学習)を実施

健康栄養学科長 教授 高木 勝広

健康栄養学科 助手 水野 尚子

健康栄養学科では、本学科独自の取り組みとして「アーリー・エクスポージャー(早期体験学習)」を実施しています。アーリー・エクスポージャーとは、入学後できるだけ早い段階で、学生の将来の就職先と考えられるいくつかの分野(医療や福祉、行政や教育、食品等)の現場を訪問し、管理栄養士をはじめ専門職で働く方々との交流を通して、学生の学修に対するモチベーションを高めることを目的としたプログラムです。

一例として、卒業生が管理栄養士として活躍する現場に赴き、専門の方の講演や現場見学を行います。専門の方から、仕事に対するやりがいや使命感等について生の声を聞くことにより、学生一人一人の心の中に、管理栄養士を将来の職とすることの素晴らしさや厳しさを留めてもらい、自分が働くときのイメージを描ければ、大学における4年間の学修に意欲的に取り組むことができると考えています。

#### アーリー・エクスポージャーのメリット

##### ① 管理栄養士の職業観を高める

管理栄養士はどんな仕事を行い、どのような役割を果たしているのかについて具体的に理解できます。

##### ② モチベーションのアップ

現場を知ることによってどんな知識が必要かを理解でき、学修意欲が高まります。

##### ③ 将来の目標の明確化

管理栄養士は幅広い分野で活躍できる職種であるため、将来の進路を考えることができます。

#### 松本市東部学校給食センターを訪問

6月29日・7月20日の2日間、2クラスに分かれて松本市東部学校給食センターを訪問しました。松本市東部学校給食センターは、一日当たりの食数が約7,500食で、松本市内18校(小学校11校、中学校7校)の給食を担っています。当日は施設の概要を紹介したDVD鑑賞と給食室等の施設見学を行いました。その後は、栄養教諭・学校栄養職員の先生方による、「栄養教諭の仕事について」の講話を拝聴しました。講話では、学校給食の仕事は、主に衛生管理、給食管理・献立作成、食に関する指導であること、特に衛生管理・給食管理は、異物混入や食中毒、発注ミスが無いように日々緊張感の連続であ

ること等が語られ、学生時代にしっかりと学ぶことの重要性が強調されました。

また、小学校では栄養教育をどのようにしているか、給食を残さずに食べてもらうための工夫についても教えていただきました。現在の仕事は、悪戦苦闘しながらもやりがいのある仕事であり、子供たちから「おいし



かった」という言葉をかけてもらえることが一番うれしいことであると語りました。

最後に、栄養教諭の使命は、①安心・安全な給食を届ける②食を大切に、将来健康に生活できる子どもを育てる助けとなる③子どもたちの成長をサポートするための栄養管理となる点を挙げ、次代を担う学生たちの今後の成長を期待しつつ講話を締めくくられました。このアーリー・エクスポージャーが、充実した学生生活と将来の夢を実現する一助となれば幸いです。

#### 今年度訪問する現場(予定)

- ブルーマリンスポーツクラブ株式会社
- 山形村いちいの里・保健福祉センター

## 学校教育学科

### 「教育問題」をテーマに 1年生による研究発表会

学校教育学科 准教授

佐藤 茂太郎

7月22日に、教育学部1年生による研究発表会(ポスター形式)を行いました。今年は「教育問題に関する研究」として大きなテーマを設定しました。1年生は全部で10のゼミがありますが、各ゼミが問題意識を仲間と共有し協力しながら研究活動に動きました。各ゼミにはそれぞれ1名の教員が担当し、適宜コメントするなどして研究活動を円滑に行えるようサポートしてきました。

さて、興味深かった点は各ゼミの問題意識、研究テーマが実に様々だったことです。「学級崩壊」「教員減少」「偏差値教育」「教員の労働環境」などが挙げられていました。研究方法も実に様々で、実際にアンケートを収集したり、量的な分析をしたり、質的分析をしたりと、学生の積極性に感心しました。

教育学部では、大学での学びはこれまでの学修方法と異なる面もあることを体験的



に学ぶことにより、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等、さらには学びに向かう力等の育成に力を入れています。学生の振り返りには、充実した活動であったことや今後の学びにつなげていくといったことなどの記述がありました。学生の今後の活躍に期待しています。

## 子どもに寄り添う、多彩な能力を備えた教員をめざして

学校現場で教壇に立ち、地域の子どもたちを育てる人材育成のために、本学では教育実習をはじめ、経験から学ぶ学修を多く取り入れており、学生たちも多岐にわたる内容の授業や実習に意欲的に取り組んでいる様子が窺えます。

### 教育実習報告会

#### — 後期実習を控えた仲間たちに向けて —

学校教育学科 教授 征矢野 達彦

7月20日、初等教育実習事前・事後指導の授業の一環として教育実習報告会が行われました。受講している3年生91名に対して、“前期教育実習生の成果や課題の発表をもとに、教育実習の意味を考え合う活動を通して、後期教育実習者の意欲喚起を図り、資質の向上に資する”“3年生同士の伝え合う活動を通して、関係性の構築と学び合いの場とする”のねらいのもと、実施されました。

内容は、まず全体会として8名によるパネルディスカッション、そのあとグループ別報告会でした。パネルディスカッションでは、発表内容がダブらないように分担し、日課や短学活・給食指導・清掃指導・授業や指導案作り・研究授業・道徳、総合的な学習の時間・生徒指導・実習記録等に分けて発表されました。発表の中で、具体的な活動以外でも「講義で受けていたことと実際の学校現場は違って

いた」「教師としてではなく、人間として私はどう思うかを大事にしたい」「子どもたちを叱ることの難しさを感じた」等の感想が出されました。

グループ別報告会は、東信・北信・中信・南信・県外に分かれ、前期教育実習終了者の司会進行により実施されました。発表者は、実習記録や実習で使った教材等を持参したり、メモしたノート類を持参したりして、具体的に分かりやすい発表をしていました。

参加した3年生からは、「不安ばかり感じていたが、見通しが持てた気がする」「模擬授業で使った指導案や友だちの指導案は役に立つので大事にしたい」「教育実習までにしっかり準備をし、自信をもって取り組みたい」「なぜ自分は教職をめざすのかを考えつつ、全力で教育実習に取り組みたい」などの感想が話されていました。実際に体験を通した仲間の



篠ノ井西小学校:寺沢孝太(学校教育学科3年生)



岡谷西部中学校:花岡星奈(学校教育学科4年)

総合経営学部・人間健康学部の学生たちも現場実習で実践力を身につけています



下諏訪中学校:今井有香(スポーツ健康学科4年)

話は、教育実習や教職について学ぶ学生にとって、有益な時間になったと感じています。

### 中学生との交流を通した双方向の学び

学校教育学科 教授 樋口 一宗

7月13日、松本市立波田中学校特別支援学級のみなさん9名と担任の加藤聡子先生、大久保稔先生、藤松輝州校長先生を本学にお迎えし、特別支援教育を研究する樋口ゼミ4年生9名が交流をさせていただきました。

朝、到着したみなさんの先頭に学生3名が立ち学内施設の案内をしました。その後は、



第2体育館でポッチャ交流会です。実演しながらルールを教えると中学生はすぐに理解し、学生と中学生の混合チームで早速、試合開始となりました。どれも接戦でしたが、随所で中学生のスーパーショットが決まり、大いに盛り上がりました。コロナ禍で学校現場に行く経験が少なかつたにもかかわらず、学生が主体的に進行する様子はとても頼もしく感じられました。

休憩後、図工室でオリジナル作品「松大皿」の制作です。模様や校章を刻印する工程に四苦八苦する大学生に、今度は中学生が道具の使い方を教えてくれました。

波田中のみなさんからは「身近な大学の施設を見学できたこと、学生



完成したオリジナル作品「松大皿」

と遊んだりお皿を作ったりしたことは心に残る楽しい体験になった」と感想をいただきました。

お互いに教えたり教えられたりする実り多い交流会を行うことができました。



## 学生企画の「公開模擬授業」で 学年の壁を越えて交流

学校教育学科 准教授 安藤 江里

教育学部は開設6年目を迎え、多くの卒業生が学校現場で活躍しています。コロナ禍で学校ボランティアやインターンシップが中止になり、教育実習が初めての現場となるケースがある中、1、2年生からは「教育実習を経験した先輩の模擬授業を見てみたい」との声も挙がり、学生同士が模擬授業で交

流する企画が発案されました。

3、4年生を中心に授業者を募り、学年の壁を越えて自由参加として、1日1教科、国語、算数、社会、英語など1週間にわたって実施しました。指導案も示されながら、電子黒板や教具を駆使して現場さながらの模擬授業が行われ、参加者からも好評でした。後半



は授業をより良くするためのディスカッションを行い、互いに学び合うことができました。今後も引き継いでさらに充実したものになることを期待します。

## いいこと尽くし!の「ビブリオバトル」から学ぶ

総経・人間教職センター 准教授 藤江 玲子



6月29日、司書教諭養成科目「読書と豊かな人間性」の受講生37名が、知的書評合戦

「ビブリオバトル」というコミュニケーションゲームを学びました。このゲームは、①パトラー(発表者)による本の紹介、②パトラーが語りきれなかった情報や、投票に役立つ情報を聴き手が引き出す質問タイム、③最も読みたくなった本の投票という流れで進めます。当日は、豊科高等学校の太田真由美先生、南安曇農業高等学校の竹腰史佳先生をゲストティーチャーとしてお招きしました。ビブリ

オバトルを用いた学校間の交流の実際など、実践例をお聞きしたのち、ゲームを体験しました。最後に、投票で最多票を集めた「チャンプ本」の紹介と表彰が行われました。

学生からは「ワクワク感やドキドキ感があり、とても面白かった」「洗練された紹介ばかりで驚いた」「豊かな良い時間だった」「発表者のプレゼンテーション能力の向上だけでなく、発表を聞いている子どもの質問力の向上も図ることができる。また、クラスの仲間のことを今まで以上に知り、仲を深め合える子どもたちを育てることにつながる。ビブリオバトルって、いいこと尽くし!」等の感想が出されました。授業後のレポートには、学校での活用に向けたさまざまなアイデアが記されていました。

## 長野県教育界の発展を! 「2022年度松本大学教育実践改善賞」論文募集

本学では、学校法人松商学園の創立120周年を記念し、地域および教育界へのさらなる貢献を目指して、「松本大学教育実践改善賞」を創設しました。今年度は、賞の創設5年目となります。長野県教育界の発展を支援するためにも、県内の優れた教育実践に光を当てる本賞の趣旨を踏まえ、これまでと同様に募集を行います。

昨年度は、12名の応募があり、4名が松本大学教育実践改善賞に、8名が特別賞に輝きました。松本大学教育実践改善賞の受賞論文は、冊子にまとめ長野県内全教育委員会および教育事務所等に送付しています。

なお、本賞の募集に関しては、長野県教育委員会の後援を受けています。皆様から多数のご応募をお待ちいたします。

### 目的

学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与することを目的としています。

### 応募条件

#### ① 一般教員部門

長野県内の小学校・義務教育学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の現職教員を対象とします。

#### ② 卒業生部門

松本大学の学部または大学院(研究生を含む)を卒業・修了し、現在教職に就いている方を対象とします。長野県の内外は問いません。

① 一般教員部門と卒業生部門があります。表彰は各部門とも若干名とします。

② 他の賞または研究誌に応募し、受賞または掲載されたものは除きます。 ③ 応募者が自ら行った実践であることを条件とします。

### 賞

#### 賞状および賞金8万円

優秀な論文には、別途特別賞(賞状、図書券1万円分)を授与します。

### 募集期間

2022年10月10日～12月10日(郵送必着)

### 応募先

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学教職センター

### お問い合わせ先

〈教職センター長〉 E-mail yasutoshi.yamazaki@t.matsui.ac.jp  
〈教職センター事務室〉 TEL 0263-48-7260

▶詳しくは、こちらをご覧ください。

松本大学教育実践改善賞 2022

検索

# 交換留学生在が 本学での学びの成果を発表



松本大学とパルドビツェ大学の交換留学提携は2006年に、また東新大学との提携は2009年に締結され、13年~16年の歴史があります。人数は決して多くはありませんでしたが、これまでに丁寧な海外留学支援に力を注いできました。

チェコ共和国のパルドビツェ大学4年のミクラス・アントニクさんとカテリーナ・バブロワさんは、7月7日より2カ月滞在し長野県

下の企業の短期研修を受けながら日本企業の経営や商慣習について学び、交換留学生として韓国の東新大学4年のキム・チャンギュさんは、2021年4月より本学総合経営学部にて経営学を学びました。9月7日、学内にて交換留学生による研修・学修成果発表会を開催しました。当日の様子についてご紹介します。

国際交流センター運営委員長・観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子

## 企業研修をはじめ日本文化や生活習慣など 幅広い分野で日本に触れる

チェコ共和国のパルドビツェ大学経済経営学部4年のクラス・アントニクさんとカテリーナ・バブロワさんからは次のような感想がありました。研修先のアルピコホールディングス株式会社をはじめ、日本銀行松本支店、有限会社多田プレジジョン、信越電装株式会社、富士電機パワーセミコンダクタ株式会社にご協力いただき、日本と欧州の商慣習の違いや日本企業の高い品質管理の

手法、人材開発に至るまで幅広い研修となりました。中でも、美ヶ原温泉翔峰にて、オランダ人の若女将ノエル・ライカーズさんによる外国人から見た日本的なおもてなしの異文化比較は、日本や英国での実務経験だけでなく、母国の大学院での社会学の学びを基に持論を展開して下さり大変参考になりました。また、企業訪問では、企業代表者や担当者による事業説明や工場内の見学を通し

### 〈プログラム内容〉

- 松本市総合戦略課訪問
- 日本銀行松本支店総務課訪問
- 企業視察

### 〈その他活動〉

- 旧中山道木曾路ウォーキング
- 上高地、蓼科、諏訪湖、京都訪問（着物着付け体験）、裏千家茶道体験、空手・居合道稽古

て、高品質の物づくりへのこだわりや競争力を肌で感じとる良い機会となりました。ご協力いただきました企業様には心より感謝申し上げます。また2カ月間の在日中の旅行体験、日本文化や生活習慣など幅広い分野において日本を知る良い機会となりました。



## 意欲的な学修の姿勢から日本での就職も実現

韓国の東新大学4年のキム・チャンギュさんは、交換留学生としての1年半の体験を日本語で丁寧に発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で日本留学が叶わない間も、オンラインで本学の授業を受講し日本語の訓練を重ね、第12回留学生日本語スピーチコンテスト(松本留学生応援ファミリーの会主催)では、初めて松本の

地を踏んだ時の感動をスピーチに込め見事3位に入賞しました。日本語の鍛錬のみでなく、アルバイトでの経験や国際交流クラブの活動、日本各地への旅行体験などについての成果も発表しました。1年半という短期滞在にもかかわらず日本での就職を実現するなど、大変意欲的に学修し、目的を達成できたことを大変喜ばしく思います。





# 研究室紹介

学校教育学科・准教授  
安藤 江里

## 人間の発達に欠かせない 音楽教育とは

私の専門は音楽教育ですが、音楽は人間の発達に欠かせない文化の一部と考えています。そもそも音楽(ミュージック)の語源はギリシャ語のムーシケであり、アポロンに仕える女神ムーサ(英語ではミューズ)に由来します。本来は詩や物語、劇、舞踊などを含んだ総合芸術でした。

さて日本の学校教育での音楽科は西洋音楽の影響を受けてきました。私たちは普段五線譜を読みドレミで歌い、ピアノやバイオリンなどの楽器に親しみ、ポップスや洋楽を好んで聴きます。文化は多様化していますが、日本人であるにも関わらず雅楽や能、歌舞伎などの伝統文化に対する興味関心は残念ながら薄いのが実態です。



2022年7月サマーコンサートより

安藤ゼミでは音楽教育に関する様々な課題を取り上げています。また校内コンサートの企画運営も行っています。2022年度は3年ぶりに対面によるサマーコンサートが行われました。

しかしながら子どもの発達を考えると、私は日本人の心に根差して欠かせないものがわらべうたであると思います。親が歌う子守歌、あやし歌、そして子どもが歌い遊び様々な言葉やしぐさを身に付けていきます。役割を演じたりモノや他者との関わりを自然と受け入れたりして社会性を養い、創造性も育ちま



鳥取市 わらべ館にて

す。日本の唱歌教育成立過程では排除された経緯もありますが、その後わらべうたの教育力は見直されています。そんなわらべうたの歴史的価値や教育的意義を示すために教育現場での実践と文献資料から研究を進めています。

わらべうたを知らない世代も多いのが現実ですが、学校教育でも積極的に取り上げてほしいと考えています。他にも人間の発達に必要な真の価値あるものを追究し発信していきたいと思っています。

【経歴】東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育修士課程修了。ロータリー奨学生としてウィーン国立音楽大学コレペティ科及び伴奏科に留学。合唱団及びオペラの練習ピアニスト、保育者及び小学校教員養成課程の講師を経て現職。

【研究課題】

わらべうたの教育的意義、身体活動を伴う表現力の育成、高等教育における芸術鑑賞 等

## 「三ガク都」松本のシンカをテーマに臥雲義尚松本市長が登壇

松本大学図書館長・総合経営学科長 教授 清水 聡子

6月30日、総合経営学部「マーケティング基礎A」(2年次必修科目)において、松本市臥雲義尚市長による「**三ガク都** 松本のシンカ」の講義が行われました。

松本市は脱東京一極集中、自立型分散社会を見据え、現在の人口を減少させない「人口定常化」を戦略目標とし、その要件として医療・教育・交通を掲げています。またデジタル化、ゼロカーボン、ジェンダー平等に積極的に取り組んでいます。

松本らしさや松本のまちの魅力を伝える言葉として「三ガク都」(岳都・楽都・学都)があります。今回の講義のテーマである「**三ガク都** 松本のシンカ」について、臥雲市長は学生に向けて丁寧にそして熱く語りかけました。

講義後、松本大学図書館に移動し、清水ゼミ3年生と図書館司書の皆さんで共同制作した「おかえり!上高地線」コーナーと「松

本のミライを考える」コーナーを臥雲市長に紹介しました。

総合経営学科3年生小林さんは「おかえり!上高地線」コーナーで、もしもアルピコ交通上高地線が信州まつもと空港や信州スカイパーク、サンプロアルウィンとつながったら、広域交通を充実させることができ、上高地や乗鞍高原とつながったら松本市と姉妹都市であるグリンデルワルトの登山列車のような観光資源となり、観光客の増加が見込めるだろうとアイデアを提示しました。臥雲市長は「もしもをもしもで終わらせない。もしものアイデアはどうすれば実現できるだろうか」と学生に問いかけました。

松本大学では「地域貢献」を理念に、地域の抱える課題を発見し、それを解決するための知見と実践力を身に付ける様々なプログラムが実施されています。今回の臥雲市長の講義から松本大学生として何ができるか、主体的に学び、どう行動するか。学生には、松本のシンカ(進化・深化・真価)のアイデアを出して、未来に向けて一歩を踏み出してほしいと思っています。



臥雲市長と清水ゼミ3年生

## 健康寿命延伸のための地域社会活動 「第3回アンチエイジングフェアin松本」を開催

「第3回アンチエイジングフェアin松本」(同実行委員会主催)が8月28日、松本市中央公民館Mウイングで開催されました。抗加齢医学を基盤とした科学に基づくアンチエイジングの実践を目指し、一般市民皆さんの健康寿命延伸のための地域社会活動を趣旨とする催しです。新型コロナウイルス感染症拡大の時期と重なり、今回の一般参加者は少数にどまりました。しかしながら、講演者や出展者間の有益な情報交換の場ともなりました。健康栄養学科学学生も展示に参加し、私の研究室では「食事の内容をチェックし、寿命の延長予測をしてみよう」で相談者の対応をしました。また、プレイベントとして実施した健康栄養学



学生によるアンチエイジング料理コンテストの授賞式を行いました。料理コンテストは試食なしの書類審査でしたが、ホテルブエナビスタ総料理長の審査により、優勝は相場萌杏さん(健康栄養学科3年)の作品「お肌に効果的!ガトーインビジブル」となりました。来年の第4回目は、松本市勤労福祉センターで開催予定です。興味のある方は、是非参加してみてください。(大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授 青木 雄次)

## 本番さながらの臨場感で 「夏季就職対策講座」を実施

8月18日から9月9日の延べ9日間にわたり「夏季就職対策講座」を実施しました。この「夏季就職対策講座」は、学部3年生と短大1年生を対象に行い、本番を想定したWEB集団面接体験やエントリーシートの添削



を行いました。冒頭のオリエンテーションでWEB面接や集団面接の概要・注意点を受講し、その後、キャリア面談員による面接練習・フィードバックを受けました。また、面接練習に先立ち、学生には事前にエントリーシートを提出させ、それを基礎資料とするなど、本番さながらの臨場感を感じてもらうことにも力点を置いています。

学生達は今回の経験を通して個々が感得した「進路の実現に向け、自分に何が足りないのか」の解決に向け後期のガイダンス臨んでいきます。学生一人一人に寄り添いながら、今後も引き続き学生の就職支援をしてまいります。

(キャリアセンター 主任 松澤 久由)

## 本学を会場に開催された「県内短大・高校連絡懇談会」



「令和4年度 県内短大・高校連絡懇談会」が8月29日に本学を会場に開催されました。この懇談会は、毎年、長野県高等学校校長会の主催により、県内の短大を順番に会場校として、8短大の代表者と校長会の各区の代表の校長先生が一堂に会し、短期大学の学びや高校からの進学について意見交換を行う場となっています。本年度は「今、県内短期大学が目指す学びとは」を協議のテーマとし、最初にそれぞれの短大から自

学の学びについて説明を行った後、長野県教育委員会の方から「県内高校の学びの改革に係る取り組みについて」というタイトルで講演が行われました。その後行われた自由協議の中では、高校の探求的な学びや少子化の中での短大への進学の意義などについての意見交換がなされ、コロナ禍の中、短い時間ではありましたが有意義な懇談会になったと感じています。

(松商短期大学部長 浜崎 央)

## 学生のテーブルコーディネート作品が 東京の審査会に展示

健康栄養学科4年生2名が7月23、24日にNPO法人食空間コーディネート協会が主催するTALKテーブル作品展「いっしょに食べよう!2022 テーブルコーディネートコンテスト」に出展しました。両名はフードコーディネーター資格科目を履修し、宮本由

香非常勤講師の指導の下、同法人が行ったコンテストに応募しました。残念ながら入選はできませんでしたが、学生の作品として優れていると協会から特別に許可され、中央区立産業会館(東京都)に展示させていただきました。

(大学院健康科学研究科・健康栄養学科 准教授 石原 三妃)



「和をベースに花見パーティーを表現」  
小口佳奈さん(健康栄養学科4年)



「両親の結婚記念日を屋外で楽しむ食卓をイメージ」  
北澤 真渚さん(健康栄養学科4年)

## 今年も見事に開花した新村ひまわり畑



JA松本ハイランド新村支部青年部にご協力いただき、今年も新村ひまわり畑に13万本のひまわりが咲きました。一斉に同じ方角を向いたひまわりは、青空と北アルプスを背景にまっすぐ見事に咲き誇りました。

## 根本教授がNHK放送「きょうの健康」に出演しました

人間健康学部長の根本賢一教授(大学院健康科学研究科/スポーツ健康学科)が9月7日放送のNHK「きょうの健康」に出演し、中年にオ

ススメする日常生活で気軽に取り入れられる運動をご紹介します。詳しい内容は、「きょうの健康テキスト 2022年9月号」に掲載されています。

他にも次のような出来事がありました。

- 8月25日のNHKニュース「イブニング信州」に観光ホスピタリティ学科の白戸洋教授が出演し、地域と山賊焼きのかかわりや歴史について解説しました。
- 8月27日、28日の2日間、本学にて防災士養成研修講座を実施し、延べ85名の方が受講しました。



# クラブ活動情報

## 硬式野球部

### ■関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦【日程と速報】

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9	3	土	松本大学 3 - 4 山梨学院大学	11:00	山梨学院大学野球場
第2節	9	4	日	松本大学 4 - 0 新潟医療福祉大学	10:00	白鷺大学野球場
第3節	9	10	土	平成国際大学 4 - 5 松本大学	10:00	白鷺大学野球場
第4節	9	11	日	松本大学 14 - 1 新潟大学	12:00	松本大学野球場
第5節	9	17	土	松本大学 2 - 3 関東学園大学	12:30	上武大学野球場
第7節	9	24	土	上武大学 - 松本大学	10:00	上武大学野球場
第8節	9	25	日	松本大学 - 白鷺大学	10:00	白鷺大学野球場
予備節	10	1	土	常磐大学 - 松本大学	12:30	平成国際大学野球場
第9節	10	8	土	松本大学 - 作新学院大学	10:00	山梨学院大学野球場

※本学は、9月18日時点で4位。

## 男子サッカー部

### ■北信越大学サッカーリーグ戦1部 前期リーグ戦【試合結果】

順位	大学名	新潟医療	新潟経営	金沢星稜	松本大学	北陸大学	金沢大学	金沢学院	信州大学	勝	分	負
2	新潟医療	未定	未定	○2-1	未定	○4-0	○2-1	○5-0 ○4-0	5	0	0	
4	新潟経営	未定	未定	○2-1	●2-5	●0-4	●0-1	○1-0 ○8-0	5	0	3	
5	金沢星稜	未定	●1-2	未定	△1-1	●1-2	○6-0 ●2-3	○6-2	○5-0	3	1	3
3	松本大学	●1-2	○5-2	△1-1	未定	○4-0 ●0-4	△1-1	○2-1	○6-0	4	2	2
1	北陸大学	未定	○4-0	○2-1	●0-4 ○4-0	未定	○2-1	○3-0	○8-0	6	0	1
6	金沢大学	●0-4	○1-0	○0-6 ○3-2	△1-1	●1-2	未定	●1-4	○3-0	3	1	4
7	金沢学院	●1-2	●0-1 ○0-8	●2-6	●1-2	●0-3	○4-1	未定	未定	1	0	6
8	信州大学	●0-5 ○0-4	●0-5	●0-5	●0-6	●0-8	●0-3	未定	未定	0	0	7

※本学は、前期終了時点で3位。後期の成績と合算して最終順位が確定します。  
1位、2位は、全日本大学サッカー選手権大会(通称インカレ)の出場権を獲得します。

### ■北信越大学サッカーリーグ戦1部 後期リーグ戦【日程】

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9	11	日	北陸大学 4 - 0 松本大学	11:00	北陸大学フットボールパーク
第2節	9	17	土	松本大学 1 - 0 金沢大学	13:00	松本大学
第3節	9	24	土	金沢学院大学 - 松本大学	10:00	金沢学院大学グリーンフィールド
第4節	10	8	土	松本大学 - 信州大学	10:15	松本大学
第5節	10	15	土	松本大学 - 新潟医療福祉大学	10:15	松本大学
第6節	10	22	土	新潟経営大学 - 松本大学	13:00	経大フィールド
第7節	10	29	土	金沢星稜大学 - 松本大学	10:30	石川県サッカー場

※日程・会場が変更になる場合があります。

## ラート競技部

### ラートインカレで男子個人総合2位!

去る9月2日、3日に、茨城県つくば市にて「第17回全日本学生ラート競技選手権大会(ラートインカレ)」が開催され、本学からは、山口航平君(スポーツ健康学科4年)が唯一エントリーしました。新型コロナウイルス感染症の第7波が収束する見通しのつかない中、大会開催の判断をくださった関係者の皆様はじめ、実行委員会には感謝しかありません。

本学からの大会出場は2年ぶり、しかも直近での学内練習時間が制限される中、僅かな時間を活用して練習に励んできました。大学関係者をはじめ、東京から足を運んで下さっている森更紗コーチやOBOGの方々等、多くの方のご理解とご支援、そして今回参加が叶わなかった部員達の応援のお陰で、持てる力を十二分に発揮し、男子個人総合2位に入賞することができました。



撮影:岩井拓未

(ラート競技部 部長 山本 薫)

## 女子ソフトボール部

### 17回連続インカレ出場!総力戦で挑むも力及ばず

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会(以下インカレ)は、9月17日から愛知県安城市総合運動公園において開催されました。本学は九州地区代表の日本文理大学と1回戦で対戦しました。日本文理大学はレベルが高い九州地区高校の有力選手を集めた優勝候補にも挙げられる強豪ですから、先制点を挙げ、相手の焦りを誘うことが勝利への鍵であると考えていました。

レギュラーに下級生が多い本学は、試合開始直後の1回表、緊張からか失策によりいきなり得点圏にランナーを背負うピンチを迎えましたが、ここをダブルプレーで切り抜けました。3回までは0-0でしたが、本学は3回まで毎回ヒットが出て、得点圏にランナーを進めるなど、強豪校相手に互角以上の戦いを繰り広げていました。しかし、徐々に地力の差を見せつけられ、4回に3点、5回に1点と相手に得点を許す苦しい戦いとなりました。本学も5回裏に2点をあげ、2-4と詰め寄りましたが、6回、7回と1点ずつを献上し、最後は2-6でゲームセットとなりました。

この試合、延べにすると投手5人、野手13人が出場する文字通りの総力戦で挑みましたが、序盤のチャンスを得点に結びつけられなかったことが影響し、残念ながら勝利を掴むことはできませんでした。これまでのご支援に心より感謝申し上げます。

なお、17回連続インカレ出場を誇る本学ですが、ここ数年、後塵を拝している金沢学院大学が今大会で優勝し、さらに来年度は北信越地区のインカレ出場枠が1校となることが濃厚であるため、来年度以降、インカレ出場が難しくなってきます。部員一同、さらなる努力を重ねていく所存ですので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
(女子ソフトボール部 部長 岩間 英明)



## 陸上競技部

### 2名の選手が日本インカレに出場

第91回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)に、本学から2名の選手が出場しました。男子100mの永井颯太さん(スポーツ健康学科2年)は、10秒75(向風1.1m)で残念ながら予選敗退という結果でした。また女子棒高跳の小林由依さん(健康栄養学科2年)は、最初の高さである3m50cmが跳べず、記録なしという結果になりました。両選手とも初出場のためか、日本インカレ独特の雰囲気や緊張感に吞まれてしまい、本来の力が出し切れませんでした。ここから新たなスタートだと思い、来年、再来年と全国の舞台で勝負できる力をつけ、またこの舞台に戻ってきたいという思いを両選手とも強くしました。なお、永井さんは、10月に栃木県で開催される国民体育大会にも出場予定です。引き続き陸上競技部への応援、よろしくお願いたします。

(陸上競技部 コーチ 村中 智彦)



男子100mの永井颯太さん



女子棒高跳の小林由依さん

「お芝居みない?」と友人に誘われ、まつもと市民劇場に入会し、早3年が経ちました。まつもと市民劇場は、「すばらしい演劇を定期的に鑑賞し、その感動を多くの仲間と分かち合おう」を目標に掲げた、演劇鑑賞団体です。年6回の例会があり、様々なジャンルの演劇を楽しむことができます。また、鑑賞にあたってはチケットの手売りではなく、あえて会員制(3人1組のサークル単位)にしていることも重要です。

さて、最近鑑賞したのは、7月の第397回

例会で、乃南アサさんの小説『しゃぼん玉』を原作とする、劇団文化座の公演でした。

『しゃぼん玉』は、自分のことを「すぐに壊れてしまうシャボン玉のようだ」という一人の若者が、宮崎県の実里の村で生活する人々とつながることで再生してゆく物語です。子ども時代に学校や家庭での居場所を失い、社会的な排除の中で、成人後も立ち直れず、孤立して漂流するシャボン玉のような若者への応援歌でもあります。また、この作品は、新型コロナウイルス感染症による社会

との分断をテーマにしたものではありませんが、コロナ禍に生きる私たちに、「人と人とのつながりの大切さを忘れるな」というメッセージを伝えてくれたようにも思います。

孤独と孤立が広がる現在(いま)、演出家の西川信廣さんが語るように、『しゃぼん玉』は、孤独・孤立に苦しんでいるすべての人たちへ、「他者とつながることで光は見えるよ」と呼びかけている、そんな力強い作品で、多くの人とその感動を分かち合いたい作品だったと改めて思います。

Information

松本大学・松商短大 『第56回 梓乃森祭』

[開催日]

10/15(土) 10/16(日)

[テーマ]

Next Innovation

“次への創造”という思いを込めました。今あるモノではなく、未来に向けて新しいモノをみんなで作り出していきます!



梓乃森祭  
特設HP



※各種イベントなど、多彩な催しを企画しています。詳細は「梓乃森祭特設HP」にてご確認ください。感染症拡大の影響により、参加者を制限する場合があります。

受験生の皆さんへ

個別相談随時受付中

入試の説明や準備、学校生活について等、幅広くご相談いただけます。

日時

平日9:00~17:00

※お問合せ・実施とも上記時間内となります。  
※土日祝日および休館日は実施いたしません。

実施方法

電話、対面、オンラインから選択可能

申込方法

事前にご連絡いただき、日時を相談いたします。

入試広報室までお問合せください。

0263-48-7201 (直通)

健康づくりは幸せづくり  
~人生100年時代を迎えて~

松本大学健康首都会議を開催

[開催日]

12/3(土) 12/4(日)

[会場]

松本大学

※参加無料

「松本大学健康首都会議」は、「地域の健康首都」を松本大学と捉え、周辺地域と一体となった地域の健康づくりを通じて、地方創生・地域貢献を目指す市民会議です。当日は、本学の教員や学生、また地域の健康関連企業・団体のみなさんが講師となってたくさんの方の健康講座を開講したり、健康に関わる様々なブース出展もあります。また、菅谷昭学長による基調講演やシンポジウムの開催も予定しています。ぜひご参加ください!

「松本大学健康首都会議(講座予定)」

- 栄養や運動、心や医療
- 子どもの健康
- 旅や音楽と健康
- 情報や経済と健康
- 地域防災
- 運動指導 など

詳しい開催内容、参加方法等については、今後HP等で公表しますのでご覧ください。



出展企業募集中

地域の企業や団体の皆さんの出展も募集します。

お問合せ先

0263-48-7200 (地域連携課)

編集後記

現代社会では、仕事に必要な知識やスキルの更新が追いつかないレベルで求められており、社会人が学び直す機会が増えていきます。そのためには社会人にとって学びやすい制度が必要ですが、本学大学院では履修科目を夜間休日やオンラインで開講したり、厚生労働省教育訓練給付金の給付対象校の指定を受けていたり、研究を主とする研究生制度を整えています。また、全学的には聴講生・科目等履修生制度を、短期大学部では司書資格取得制度を設けています。実際にこれらの制度を活用している社会人は、若い学生と切磋琢磨して知的にWin-Winの関係を構築しています。思い立ったら、ぜひご活用を。  
(記・入試広報委員長 山田 一哉)

